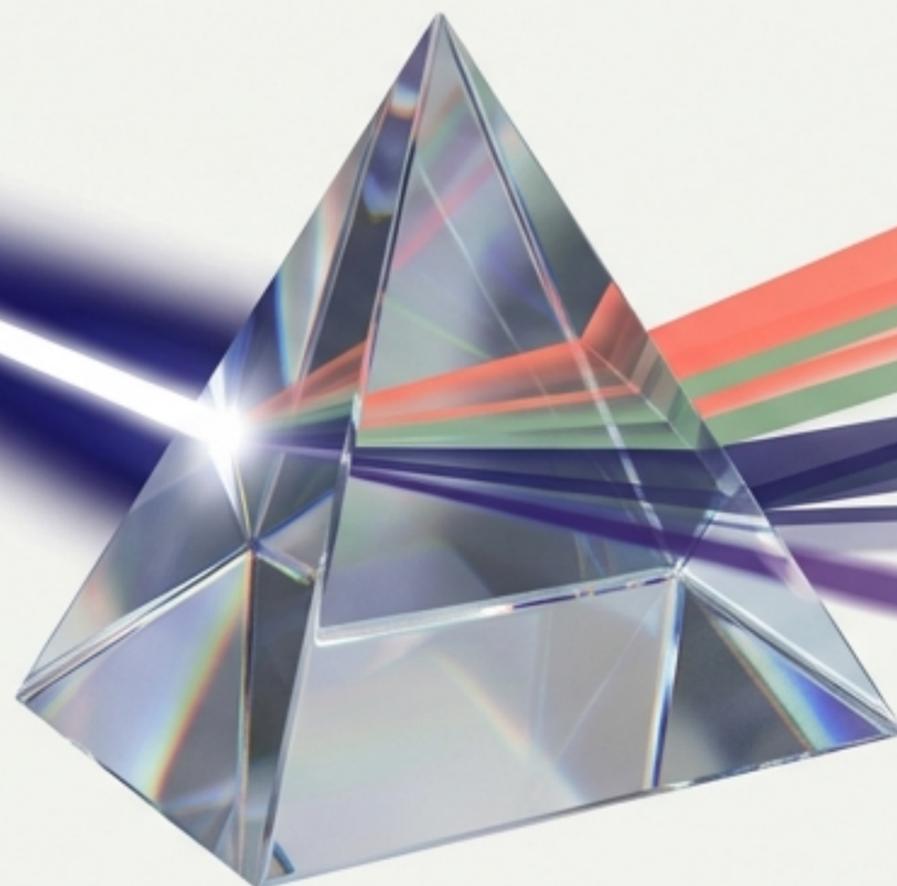


Modern Scientific Editorial

日本語学習者の「誤用」を科学する

中間言語のメカニズムと背景

ベトナム・ネパール・韓国・中国語母語話者のデータに基づく分析

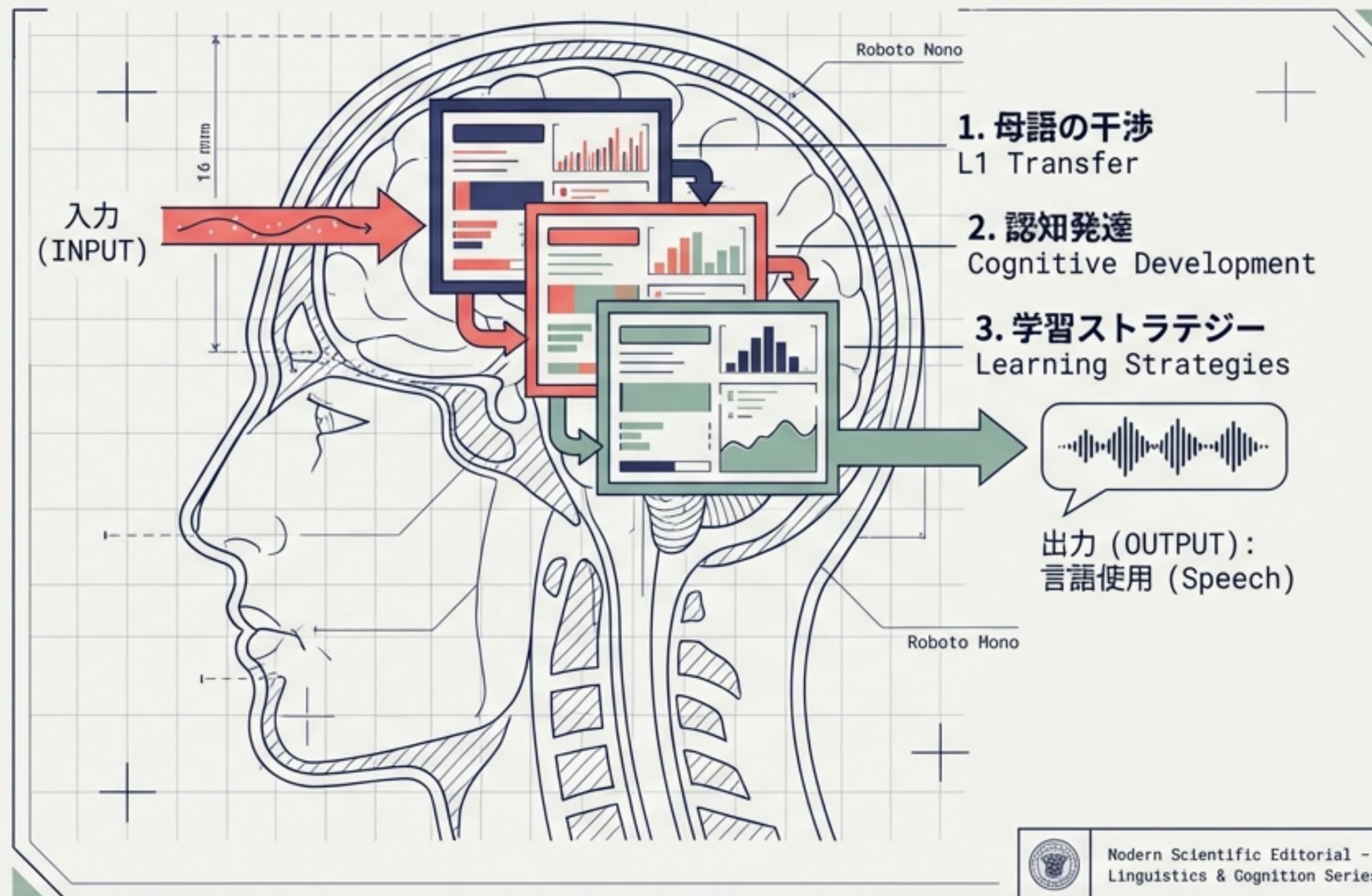


Footer: Based on research by Nguyen, Tazoe, Wako, Shimada, and Sato.

誤用は「失敗」ではない。「中間言語」の証拠である。

中間言語 (Interlanguage / Selinker, 1972)

学習者の頭の中には、母語とも目標言語とも異なる独自の言語体系発与とも異なる独自の言語体系が存在する。誤用は認知プロセスを反映した必然的な結果である。

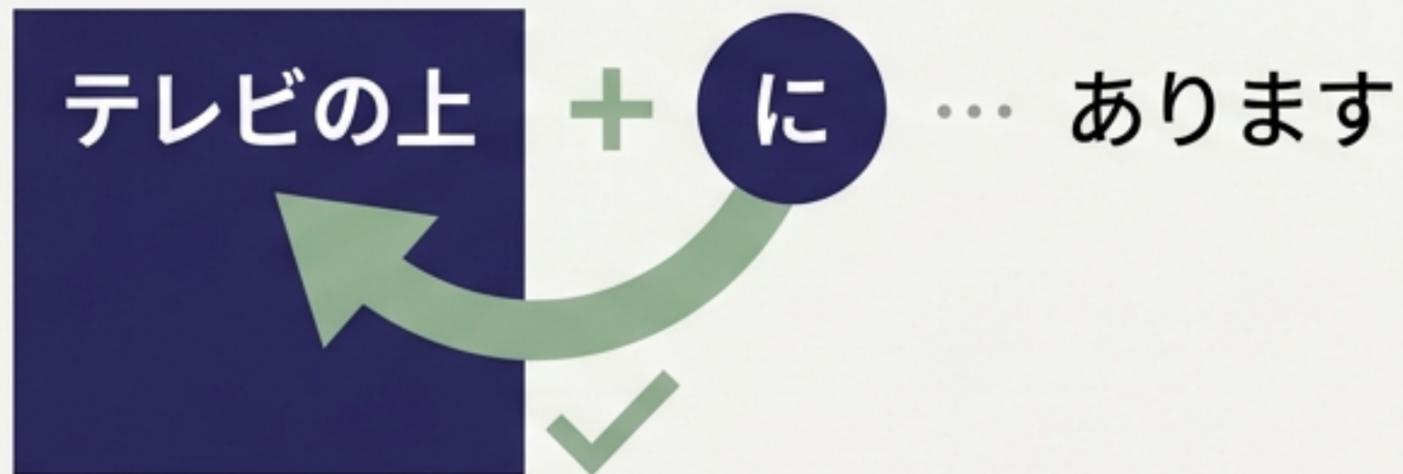


認知の初期段階：名詞に依存する「ピボットスキーマ」

ベトナム語母語話者の事例 (Nguyen)

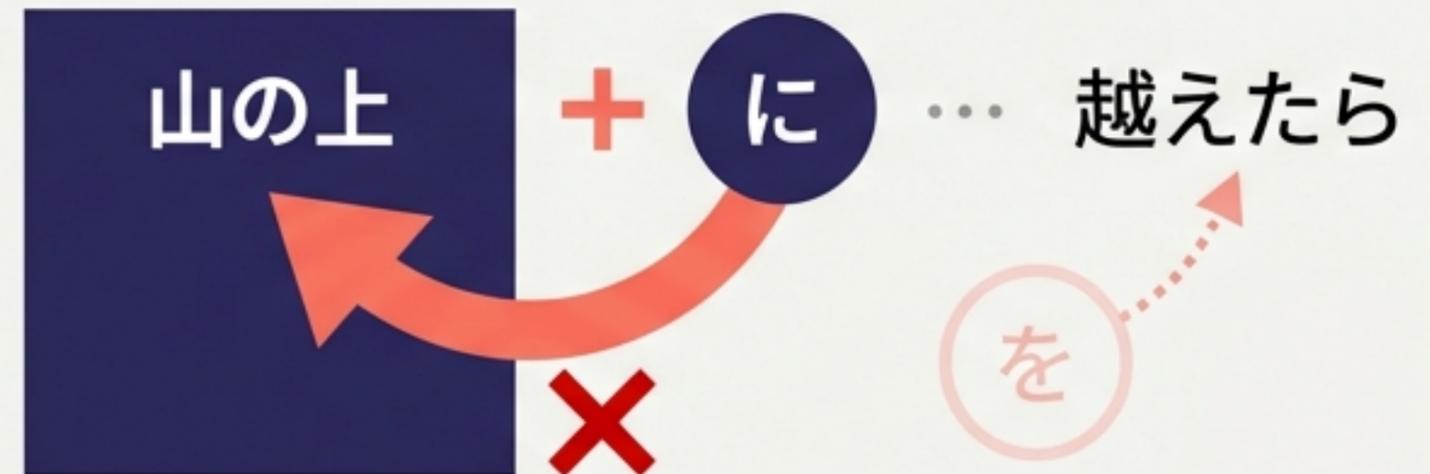
Case A: 成功 (Success)

テレビの上 + に … あります
Location Particle Verb



Case B: 誤用 (Error)

山の上 + に … 越えたら
Location Particle Verb



注釈 (Annotation)

初期学習者は動詞（越える）ではなく、直前の名詞（上＝場所）に引きずられて「に」を選択する。

「塊（かたまり）」としての暗記：「動詞ピボットスキーマ」の功罪

ベトナム語母語話者の事例（Nguyen）



Fossilized Chunk

Scenario Text

Memorized: 部屋 **を** 出る (Leave room)

Applied Context: 道 [Place] ... 出ました
(Appear on road)

Error Output: 花の**いっぱい**の道 **を** 出ました
(Error: Should be **×**)

学習者は「助詞+動詞」をセットで記憶するため、
文脈が変わってもセットを崩せない。



消える助詞の謎：母語の「ゼロ格」の影響

ネパール語母語話者の事例 (Tazoe)

Japanese Target Structure	私 は 日本語 が 分かりません。
Nepalese Structure (Tazoe)	ma [∅] ... jāpānī bhāsā [∅] ... jāndinā (私) (日本語) (ない)
Learner Output	タイ語 () ぜんぜん分かりません。

Insight Box:

負の転移 (Negative Transfer):

ネパール語の「無標 (ゼロ格)」の規則がそのまま適用されている。



Modern Scientific Editorial

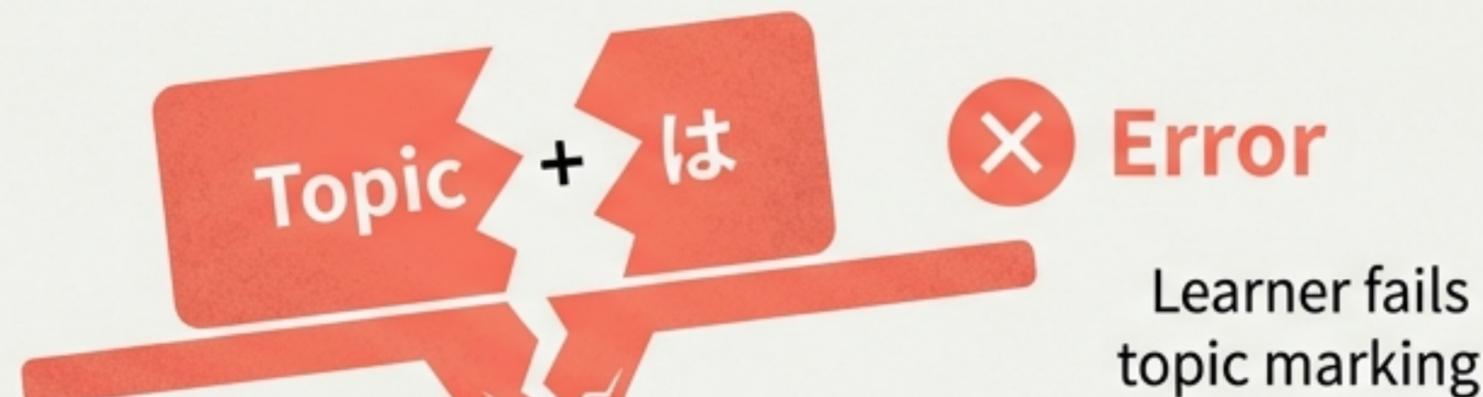
- Linguistics & Cognition Series

📖 NotebookLM

統語と談話の狭間：「が」と「は」の使い分け

ネパール語母語話者の事例 (Tazoe)

談話レベル
(Discourse)



✗ Error

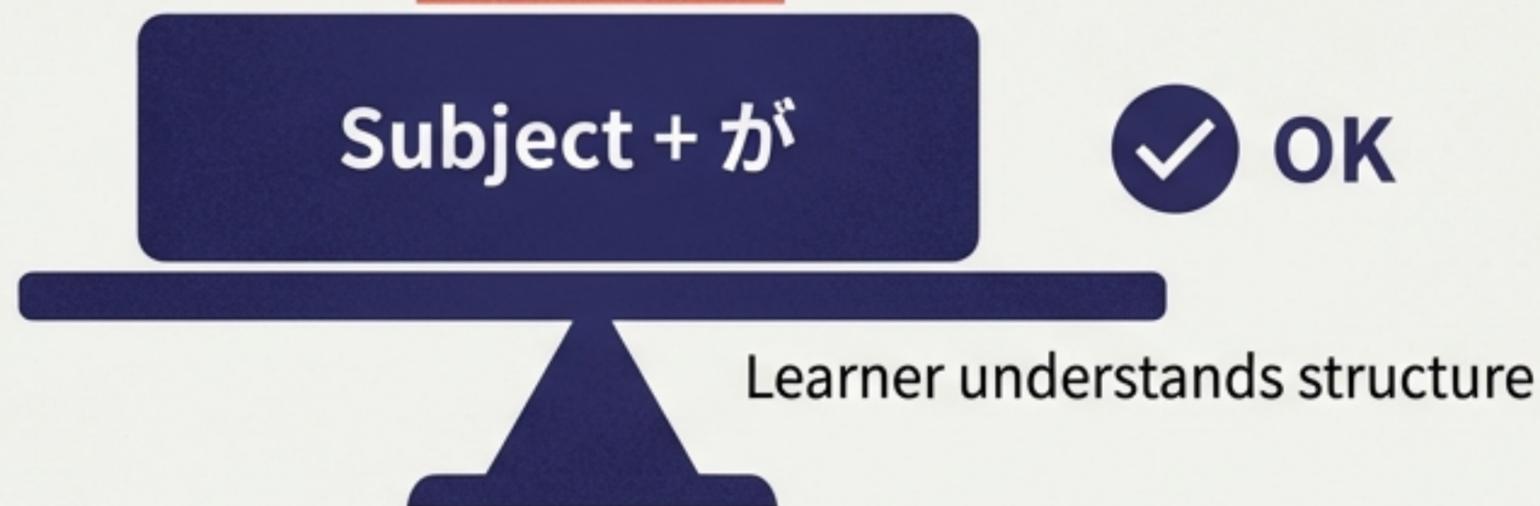
Learner fails
topic marking

Example

Error: 暑い天気があまり好きじゃありません。

Correction: 暑い天気は
...(Contrast/Topic).

統語レベル
(Syntax)



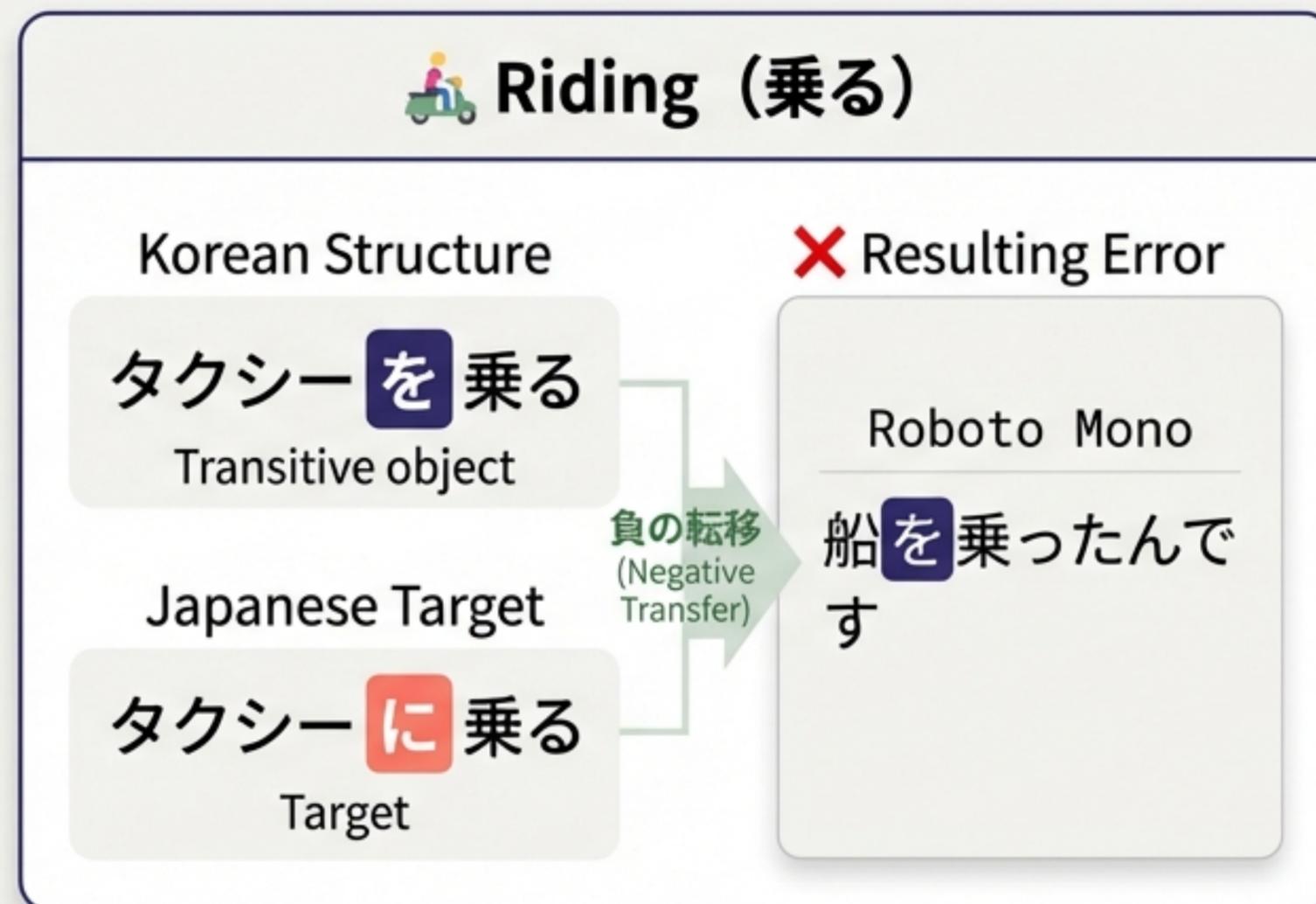
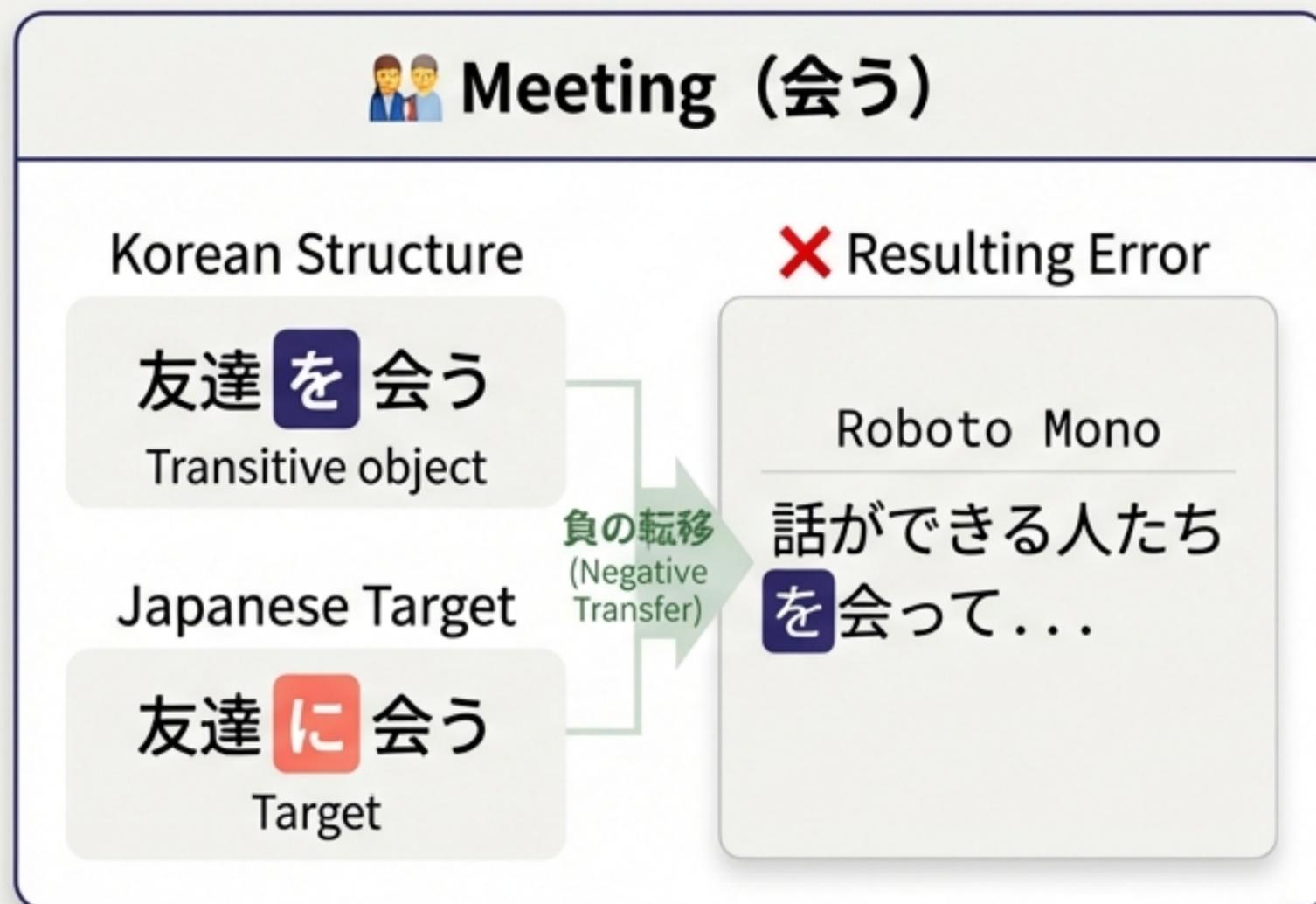
✓ OK

Learner understands structure

文法的に正しくても、文脈的に不自然な日本語が生まれる。

似ているからこそその落とし穴：格助詞のズレ

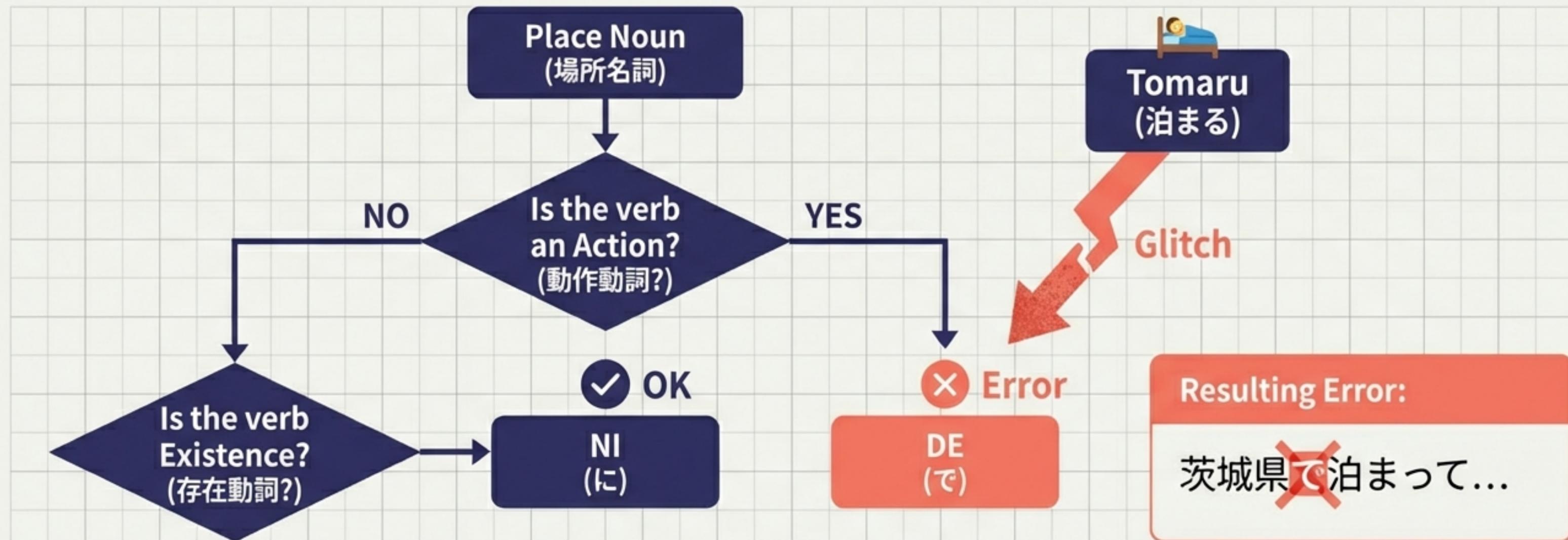
韓国語母語話者の事例 (Wako / Oil)



9割の類似性が、残り1割の致命的な「負の転移」を引き起こす。

脳が作る簡易ルール：「ユニット形成」戦略

一般学習者・韓国語話者 (Sakoda / Wako)



学習者は動詞の意味を単純化（動作 vs 存在）して処理するため、「泊まる」のような境界的な動詞で誤用する。

複雑さを回避する戦略：「んです」の過剰般化

韓国語母語話者の事例 (Wako)



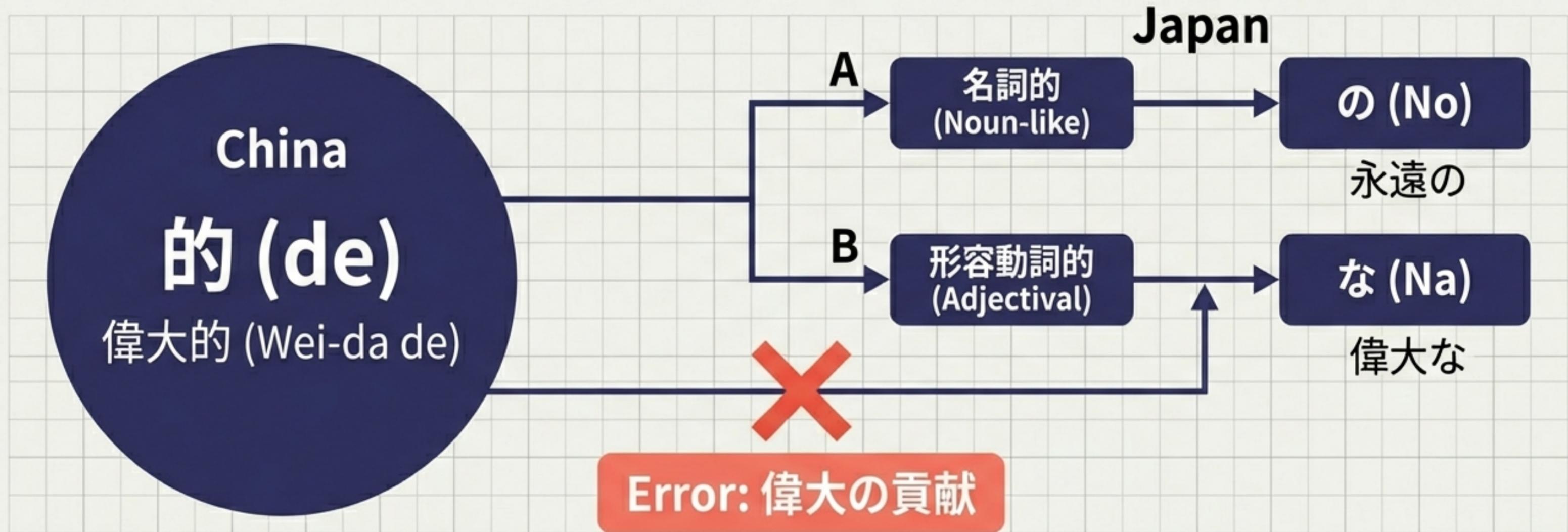
Q: 「お父さんは怖い？」

A: 「今はあんまり怒らない **んです**。」
(Unnatural explanatory tone).

「です・ます」の複雑な活用を避けるため、
万能な「んです」を多用してしまう。

形容詞の境界線：「的 (de)」が招く曖昧さ

中国語母語話者の事例 (Shimada)



中国語の「的」は両方の機能をカバーするため、学習者は「の」と「な」の境界線で迷う。

なぜ誤用は消えないのか？：化石化のメカニズム

ケーススタディ：長期滞日学習者（アグネス・チャン）



Local Error vs. Global Error

意味が通じる誤用（ローカルエラー）は訂正されず、化石化する。

Examples List

最高 **な** 調子 (Standard: 最高の) - Fossilized

満席 **な** ホール (Standard: 満席の) - Fossilized

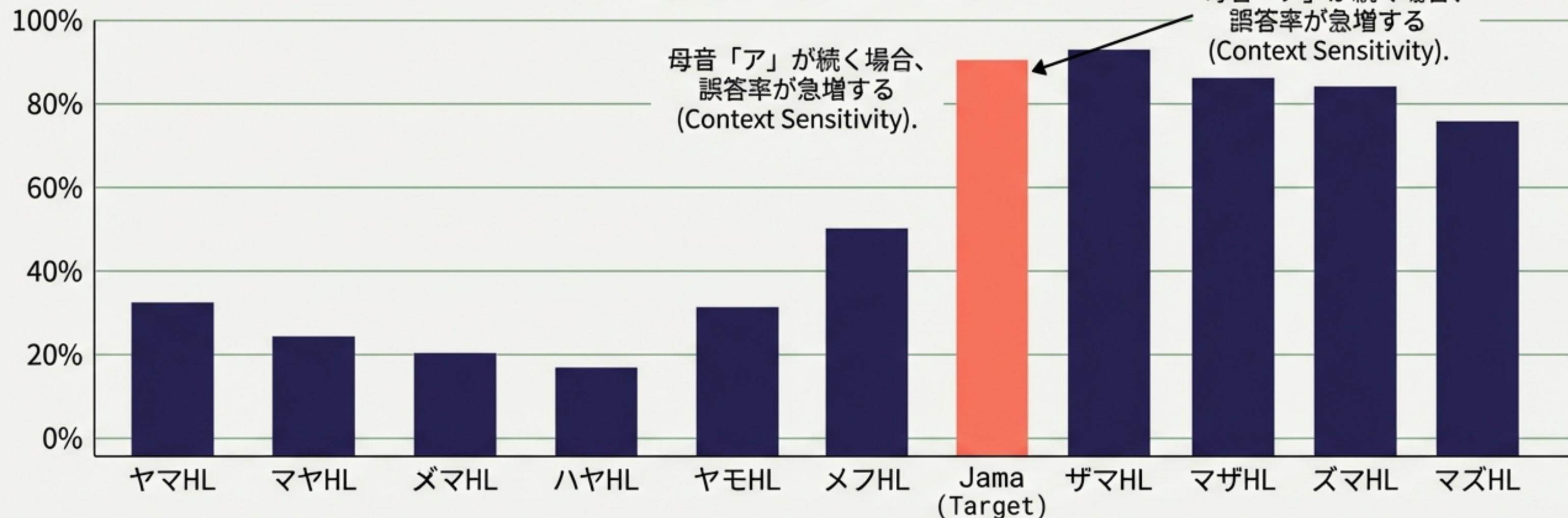
コミュニケーションの成功体験が、皮肉にも誤用を定着させる。



「音」の壁：知覚できなければ、生成できない

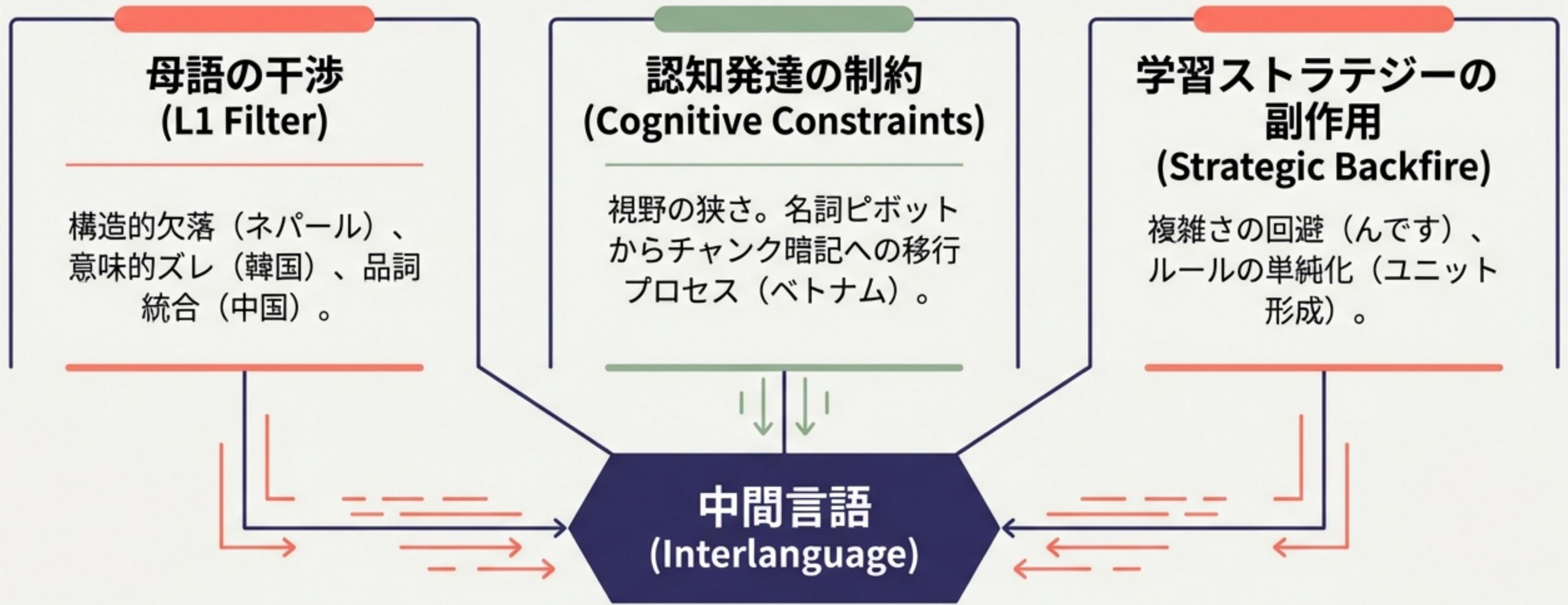
ベトナム語母語話者の事例：ザ行の混同 (Sato)

「ザ行」聴取における誤答率



「邪魔 (Jama)」が「山 (Yama)」に聞こえる = コミュニケーションの断絶。

3つの障壁：学習者を阻むものの正体



教育的示唆：誤用への処方箋



動詞の結合価
(Valency)
への注目

「～に」ではなく、「～
～に会う」というセット
で指導する。



化石化への
「気づき」

上級者の「通じる誤用」
にあえてフィードバック
を行う。



母語との対照
的アプローチ

「似ているから大丈夫」
という思い込みを打破し
し、差異を明示する。

結論：誤用は「創造」である

誤用データが示したのは、学習者の脳が単に情報をコピーしているのではなく、仮説を立て、ルールを作り、能動的に新しい言語システムを構築している姿である。

Noto Sans JP

一時的な「後退」は、システム再構築のための「前進」のサインである。